

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先の、誰もが目にすることのできる場所に理念を掲げ、職員や訪れたお客様にもわかるようにしています。そして、職員は理念に沿った生活が日々送れるように努めています。	理念については来訪者の目にも触れ易いように玄関に掲示し、職員間での共有に努めている。「共に」を支援の柱とした理念については、時折、声を出して唱和したり、職員会議の中で確認し合い実践に繋げている。職員は理念の持つ意味を理解して、食事作り、掃除等、出来る限り利用者にも参加していただき理念に沿った支援に繋げるようにしている。家族に対しては利用契約時に理念の中の「共に」に基づいた活動について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前までは、地域の各行事等に参加していましたが、感染予防のため、外出することや交流する機会が少なくなりました。しかし、グループホーム前は元善光寺の地域の方や参拝者が多く通るので、挨拶を交わしたりしています。	開設以来自治会費を納め、地域の一員として活動している。コロナ禍が長引き地域行事への参加は未だ思うように行えていないが、近所の子供たちが遊びに来て歌を歌って利用者や交流したり、元善光寺のお祭りの時には「獅子舞」が来訪して駐車場で踊りを披露し楽しいひと時を過ごしている。また、お彼岸には当ホームの地主に利用者と共に作った「おはぎ」を届け、喜ばれている。更に、来年度は中学生の職場体験の受け入れも予定している。コロナ5類への移行を受けボランティアの来訪等についても少しずつコロナ前の状況に戻って行きたいという意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで行われてきた実習生の受け入れ等はコロナ禍のため中止となりましたが、来年度からボランティアの受け入れ等から再開できる見込みです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特に、コロナやインフルエンザなどの感染対策についての助言や注意事項の提案をいただき参考にしてきました。	地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、奇数月の第4金曜日に開催している。近況状況、利用者状況、事故・ヒヤリハット等を報告し、また、行事の様子を写真で紹介した後、意見交換等を行い、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議の構成メンバーの枠を広げ、多方面からの意見、助言、協力をいただき、より一層地域の中に開かれ、親しまれるグループホームとして飛躍されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との各会議は中止となっていますが、必要事項については直接電話で連絡をし、サービスの向上に取り組んでいます。	市長寿支援課には事故・ヒヤリハット報告、等必要に応じて連携を取るとともに、独居より入居の利用者の郵便物の配達対応などについても相談している。地域包括支援センターとは大雨の際の避難場所等について相談している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、ケアマネジャーが対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在も拘束をしない介護に努めています。仮に拘束が必要と認められる場合には、ご家族様と相談の上、同意書を得るようにしています。	方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠している。帰宅願望の強い利用者は現在はいないが、いる場合は話をしたり、玄関先までお連れして納得していただいている。転倒・転落の危険のある方がおり、家族と相談の上センサーマットを使用している。年1回、身体拘束に対する研修会を行い、合わせて毎月の職員会議の中で身体拘束適正化委員会を開き、拘束に対する意識を高めて支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常起こりうるハラスメントの言葉にも目を向け、何が虐待なのか、職員会議などで改めて検討し、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の中で勉強会を開いたりして、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前等に見学していただいたり、詳しく説明したりして、ご理解いただいた上で入所していただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から管理者が現場に関わって、ご家族様の面会等では、話を聞いたり、相談に乗ったりして、意見や要望を聞き、運営に反映できるようにしています。	家族の面会についてはコロナ蔓延中は自粛していた期間もあったが、現在はコロナ5類への移行を受け、事前に連絡を頂き、感染対策を取った上で人数は3名までとし、居室にて短時間の対面で行っている。家族とは面会時や電話にてきめ細かく連携を取っている。コロナ前には年2～3回のペースで開催していた家族会も中止の状況が続いているが、来年度は敬老会に合わせて家族会を再開したいという意向を持っている。また、ホームの様子を知らせていたお便り「げんき通信」も現在は休止状態になっており、来年度から再開していこうと準備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から管理者は職員との関わりを大切に、その場で職員の意見や提案を聞き入れるようにしています。また、必要であれば理事長に進言するように努めています。	月1回職員が集まり易い日を選び、職員会議を開催している。連絡事項、事故・ヒヤリハット報告・検討、行事計画、行事報告、カンファレンス、身体拘束適正化委員会、意見交換等を行い、業務内容の理解とサービスの向上に繋げている。法人として人事考課制度があり、職員は年1回自己評価シートを用いて評価を行い、管理者が上長評価をし面接もを行い、モチベーションアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自己評価をアンケート方式で行ってもらい、さらなる向上心を持って勤務ができるように就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や毎日の申し送りの中で、職員の介護力の向上につながるような内容について話し合い、実践に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、同一法人のグループホームとの交流も中止せざるを得ませんでした。が、機会があれば情報共有等をしていきたいと思っています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの入居者様の生活状況を踏まえて、安心して過ごすことができるように、ご本人の声にしっかりと耳を傾け、信頼関係を築くことができるようにしています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの入居者様の生活状況を踏まえて、安心して過ごすことができるように、ご本人の声にしっかりと耳を傾け、信頼関係を築くように努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や状況を把握し、それを職員間で共有し、ケアにつなげています。ご家族様には入所後のご本人の状況を詳細に連絡をしています。また、その後のサービス導入についても柔軟に対応しています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に笑い、日々を楽しく暮らしていくことができるように、職員はご本人とのより良い人間関係を築くようにしています。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様には、ご家族様と同じ思いで寄り添いながら、また、ご家族様と共に支えていくことができるような関係を築くようにしています。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の生活歴とともに、これまで大切にしてきた場所や地域等との関わりを大事にして、その生活習慣を尊重するようにしています。	知人や友人などとの面会については家族より事前に連絡を頂き実施している。知人や友人も高齢なことから、親戚、お孫さん等の面会が主となっており、利用者も歓談している。下着や季節の洋服等は家族にお願いして届けていただいている。好きなお菓子や使い慣れた日用品等、希望の物は職員が買い物してお渡ししている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事等の時間は職員と一緒に飲食をし、多くの会話で入居者様同士との関係が円満にいくように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性がなくなっても、相談や支援ができるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向、または、生活習慣等からケアの方針を決め、入居者様本位の介護計画を作成しています。	殆どの利用者が自分の思いや意向を伝えられる。言葉のキャッチボールを大切にし、利用者の思いを受け止め職員が全てを行うのではなく利用者と一緒に希望に沿えるように取り組んでいる。また、耳の不自由な利用者に対しては筆談やジェスチャーも交えながら思いを受け止めるようにしている。日々の支援の中で気づいた事柄については個人記録に纏めて情報を共有し、出勤時に確認して日々の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前面接をしたり、多方面のサービス提供をしている方から情報収集したりして、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	顔色や、食欲の有無、または排泄状況を見ながら、日々の会話やバイタルチェックを通して、入居者様の心身の状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催してモニタリングを行い、それをもとに見直し、ご本人やご家族様の要望を取り入れた介護計画書を作成しています。	全職員で利用者一人ひとりの状況把握に努めている。ケアプラン更新時に合わせてサービス担当者会議を行い意見を出し合い、モニタリングも行い、家族の希望は面会時や電話で伺い、ケアマネジャーがプランの作成を行っている。入居時は家族から聞いた情報を参考に、3ヶ月のプランを作成し、様子を見ながら長期目標を6ヶ月としている。そうした中、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個別の「介護記録」を毎日記載し、朝礼などで勤務を交代する際には、必ず申し送りを行い、職員同士の情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの提供や緊急時の医療連携などを行い、柔軟な支援にとりくんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居様が安全に暮らしていくことができるように、地域の民生委員の方と意見交換をしながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望を尊重し、往診またはご家族様による受診ができるように支援しています。そのため、かかりつけ医とは絶えず連絡し合い、良好な関係を築くようにしています。	入居時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、入居前からのかかりつけ医の月1回の往診で対応している方が半数弱、ホーム協力医の月1回の往診での対応の方が半数強となっている。看護師が医師の往診時に同行しており、利用者の状況把握に努めている。また、必要に応じ訪問看護師とは個人的に契約をいただき対応している。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。また、その他、整形、耳鼻科等の専門医の受診については基本的には家族に付き添いをお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居様の個別のケースにより、必要であれば訪問看護などが受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医師や担当看護師、または相談員と綿密な連絡を取り、早期退院ができるように関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との話し合いはもちろんのこと、職員間でもしっかりと話し合いを持ち、重度化や終末期に向けた支援ができるようにしています。また、かかりつけ医との情報の共有に努めて、緊急時にすぐに対応できるようにしています。	重度化、終末期に対する対応については利用契約時に説明して家族の意向も聞いている。入浴や食事が難しい状況に到り終末期を迎えた時には家族の意向を確認の上、医師と連携を取り、話し合いの場を設け、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この2年以内に6名の方の看取りを行い、コロナ禍ではあったが家族には居室で利用者とともに最期を過ごしていただくことができ、感謝の言葉を頂いている。また、見取り中は本人が好きだった洋服に着替え、家族の写真を多く飾り、枕元で好きだった音楽を流し、職員もきめ細かく顔出しをして、心の籠った看取り支援に繋がったという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会があれば参加してもらっている。また、コロナやインフルエンザの感染の折には、法人内の職員派遣などを通して、的確な対応について話し合い、確認してきました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月には、職員の連絡網を使つての避難訓練などをしてきました。	昨年9月、消防署員参加の下、防災訓練を行っている。緊急連絡網を使つての通報訓練、利用者全員参加で外へ移動しての避難誘導訓練、避難経路の確認、水消火器を使つての消火訓練を行っている。合わせて土砂災害に備え、ハザードマップの整備と確認を消防署へ依頼している。備蓄については「水」「レトルト食品」などが3日分準備されている。更に、停電に備え「蓄電池」の設置が予定されている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を人生の先輩として敬い、敬意をもって接するように心掛けています。そして、入居者様の誇りを大切に、プライバシーの確保を重視しています。	言葉遣いには特に配慮し、上から目線にならないように、人生の先輩である利用者の尊厳を守り、接するようにしている。また、利用者の前では他の利用者の話しはしないように徹底し、職員同士が話をする時には利用者にお尻を向けないようにしている。声がけは苗字か名前を「さん」付けでお呼びしている。また、入室の際には「ノック」と利用者の名前を声掛けをするよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様には、強いることがないように「どちらにしますか？」と言って、選択しやすい言葉かけを通して、ご本人から選んでいただけるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、入居者様には自分らしく、自分の時間を大切に過ごしていただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の着替えなどには選択肢をつくり、ご本人に選んでいただけるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様個々の好みを把握し、それぞれに合った食事の提供を行うように支援しています。特に、季節の食材を取り入れることや行事食等に力を入れています。	食べる事の楽しさに注力し、利用者の見える所で調理をし、出来立ての物を温かいうちに提供して楽しんでいただいている。現在、全介助の方が若干名いるが、他の利用者は自力で摂ることができる。献立は利用者の希望も聞きながら冷蔵庫の中の食材を用い、季節感も考え家庭的な料理を中心に出している。そうした中、お寿司が好きな利用者が多くいることから、月1回の行事の際には「ちらし寿司」「いなり寿司」「お刺身」等を楽しみ、年末には「年越しそば」、正月には本格的な「おせち料理」を味わっている。更に、お彼岸には「ぼた餅」や「おはぎ」を作り、季節感も味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、入居者様個々に合った食事提供ができるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症予防のため、毎食後の歯磨きや義歯の洗浄を実施しています。必要があれば、歯科医師と連携して、口腔内の清潔に努めるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄力を把握し、その人に合った排泄介助ができるように支援しています。	一部介助の方が三分の二、全介助の方が若干名という状況である。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、排泄記録も参考にしながら早めにお誘いして気持ち良く過ごしていただくようにしている。また、排便については3日間ない場合はコントロールを行い、お茶を中心にコーヒー、乳酸飲料等で1日800cc以上の水分摂取に取り組み、排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をつけ、便秘の人にはマッサージなどを行っています。定期処方以外の薬は控え、飲食物の工夫などで便秘解消の方法を探っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみの一つとなるよう、また、入りたい時に入れるように支援しています。	全介助の方は若干名で、職員二人で介助している。他の方は一部介助が必要な状況である。基本的には週2回の入浴を行っているが、希望で3回入浴されている方がいる。また、入浴拒否の方もいるが、誘い方の工夫をして入浴していただいている。入浴剤も何種類か用意して、入浴を楽しめるようにしている。また、「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等、季節のお風呂も楽しんでいる。来年度は感染状況を見ながら近くの道の駅の「足湯」を楽しむに出掛けたいという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で寝られない時は居間で休んで頂いたり、その人に合った対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個別に服用している薬のリストを作成し、職員全員が閲覧し、把握するようにして支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が食べたい物を言ったり、個々の趣味を活かしたりできるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ対策のため外出は禁止としていますが、感染症が落ち着き、外出が可能となれば支援していきたいと思っています。	外出時、独歩の方、歩行器使用の方、車いす使用の方が、ほぼ三分の一ずつという状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり駐車場で外気浴を楽しんでいる。また、時折、元善光寺の門前のお土産屋さんやお饅頭屋さんまで買い物に出掛けている。コロナ禍の状況が長引き、外出が難しい状況が続いていたが、コロナ5類への移行を受け、少しずつコロナ前の状況の戻すように取り組んでおり、昨年春には元善光寺の桜の花見やドライブを兼ねて近隣の桜の名所にも出掛けている。来年度は感染状況を見ながら外出計画を立て、季節の花の見学などに出掛けたいと思っている。更に、「回転寿司」に食事に出掛けたいという意向を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の中でお金が必要な方には、お金を持っていたり、自己管理をしていたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と連絡を取りたい方には電話を貸す、手紙を出したい方には代筆をする等の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節折々の花を飾って目で楽しんで頂いたりして、居心地よく過ごせるように工夫しています。	玄関を入ると綺麗に飾り付けられた花と動物の人形が迎えてくれる。共用部分はホールとキッチンが一体となっており、職員は料理をしながら利用者の様子を窺うことが出来る。また、食事テーブルの他に大きなソファが設けられており利用者の寛ぎの場となっている。壁には利用者のホームでの生活を写した写真が飾られており、家族から送られた絵手紙作品も数多く飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、気の合った入居者様同士で話ができるように座る場所などを工夫したりして、支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様個々の生活歴を尊重し、馴染みのタンスやベットを持って来ていただくなど、自宅の環境と変わらない空間づくりに留意しています。	整理整頓が行き届いた居室は十分な広さが確保されている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、使い慣れたタンス、イス、テーブル、衣装ケース、ハンガーラック、テレビ等が置かれ、家族の写真や好きな人形等に囲まれ、思い思いの生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の現行のレベルを維持していくため、歩行器などを使い、個別の状態や状況に合わせ、自立した生活が送れるように支援しています。また、廊下やトイレには手すりを設け、安全にも配慮しています。		